

令和4年2月 定例教育委員会 会議録

1 日 時 令和4年2月16日(水) 開会 15時00分 閉会 16時35分

2 場 所 福井市役所本館8階第1委員会室

3 出席者 教育長 吉川 雄二
教育長職務代理者 春木 伸一
教育委員 木村 敦子
教育委員 多田 和博
教育委員 宮郷 美千代

<事務局職員>

少年対策参事官 松倉 伸雄
教育次長 坂下 哲也
図書館統括館長 小倉 敏之
教育総務課長 馬來田 善準
学校教育課長 坪川 修一郎
保健給食課長 木下 武明
生涯学習課 山本 桂一郎
青少年課長 松田 玲子
スポーツ課長 中嶋 靖利
文化財保護副課長 渡邊 貴美
図書館副館長 山本 恭唯
みどり図書館長 井土 博之
桜木図書館長 嶋津 康弘
調整参事 吉田 武文
教育総務課 課長補佐 廣部 嘉寛
教育総務課 主幹 藤井 由文

4 議 題

議 案

第28号議案 市議会定例会提出議案(令和3年度福井市一般会計補正予算)に同意することについて

第29号議案 市議会定例会提出議案(令和4年度福井市一般会計予算)に同意することについて

第30号議案 第3期福井市教育振興基本計画の策定について

報 告

(1) 福井市学校教育方針(令和4年度~令和8年度)について

(2) 福井市図書館リニューアルについて

(3) 北部地域学校規模適正化基本計画について

5 議事の経過

- (1) 開会、教育長あいさつ
- (2) 会議録署名委員の指名 多田 和博 委員 宮郷 美千代 委員
- (3) 議事の要旨

教育長

第28号議案及び第29号議案までの議案は、市議会上程前につき、第30号議案及び報告(1)については、教育振興基本計画が公表前につき、それぞれ非公開を要する案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により会議を非公開としたいが、御異議ないか。

— 異議なしの声 —

教育長

異議なしとのことなので、第28号議案、第29号議案、第30号議案及び報告(1)は非公開とし、後ほどの審議とする。

教育長

はじめに、報告(2)福井市図書館リニューアルについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

(図書館 副館長)

今年度、取り組んできた図書館リニューアルについて実施計画がまとまったので説明する。

外観の特徴は、断熱性が高く、紫外線カット効果のあるLow-E複層ガラスを利用し、環境に配慮した省エネ効果の高い建築物として、市内の公共施設で初めてZEBを実現する。ZEBとは、ゼロネット・エネルギー・ビルディングの略である。市立図書館では消費エネルギーを50%以上削減する、ZEB Readyを取得する予定である。

北側出入口付近の壁には、既存の外装タイルを再利用するとともに、増築部分の外壁も既存外壁色と同系色とし、調和を図っている。北側にバス待合所を整備し、バス利用者の利便性を向上させることとしている。

半屋外空間を有するつながり広場を田原町商店街に近い場所に配置し、賑わいを創出できるようにした。また、広場から直接入れる出入口を設け、人の流れができるようにした。

蔵書冊数は、46万冊から72万冊に増やすとともに、駐車台数についても、63台から82台へ増やすこととしている。

内観については、開架エリアを1、2階に拡大し、児童図書エリアを充実させている。また、通路幅も車いすが通りやすいように設計してある。閉架書庫は60万冊に拡充している。

今回の市立図書館リニューアル工事に伴い、休館中のサービス低下に配慮し、臨時窓口として、田原町ミューズに田原町ミニ図書館を設置する。期間は令和4年5月9日から令和6年3月末までの予定。職員が2名常駐する他、行事開催時には司書数名を加えて対応することとしている。

教育長	ただ今の説明について、御意見、御質問等があればお願いします。
多田委員	46万冊から72万冊とあるが、これは、書庫の大きさなのか。それとも、実際にこれだけの本を増冊するということか。
事務局 (図書館 副館長)	実際に収納できる冊数である。
多田委員	オープンするときに72万冊を全部買うということか。
事務局 (図書館 副館長)	そうではなく、将来、蔵書が増えた場合に対応できるようにするものである。
多田委員	田原町ミューズの多目的スペースは福井市の施設なのか。賃料などは必要なのか。
事務局 (図書館 副館長)	賃料ではなく、清掃協力金として払うこととなっている。
事務局 (教育次長)	都市戦略部の所管である。
教育長	清掃協力金として、1日単位でいくらかかるのか。
事務局 (図書館 副館長)	1日あたり7,200円である。朝9時から夜9時までとなっている。
春木委員	現在の蔵書はどこに保管するのか。保管料はかかるのか。
事務局 (図書館 副課長)	予定しているのは、美山図書館、旧美山総合支所、旧清水総合支所である。保管料はかからない。
教育長	他によろしいか。 次に、報告(3)北部地域学校規模適正化基本計画について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (教育総務課長)	基本計画の概要について説明する。令和2年5月に検討委員会から答申が出されており、その中では、森田小学校については速やかに2校への分割を進めることが必要なことと、分割に際しては校区を見直し、通学時間や安全面について十分配慮することとされている。 その後、委員会を設置し、児童生徒数の予測を行ったところ、森田小学校は

2035年に1,468人、森田中学校は2041年に735人、それぞれピークを迎える予測であった。

これを受け、小学校は2校化する必要があるが、その方策としては中学校を移転新築し、現中学校を小学校に転用することが示された。

また、その案についてアンケートを行ったところ、概ね望ましいという結果であった。

学校規模については、現森田小学校と現森田中学校ともに、最大800人の児童を収容できるような規模の学校を想定しながら整備する。現森田中学校は、現在、450～500人の収容規模となっている。そのため、今後増築をしていく必要がある。令和5年度に一次増築を行い、そのための準備を来年度から行う予定である。給食室増築については、令和8年度に、小学校に変更する際に増築を行う。

中学校は新しく整備することになる。場所は、北体育館に隣接する場所に建設する予定である。概ね、森田地区の生徒数と、河合地区の生徒数の合計が、800～850人になるが、当初は700人程度収容できる各学年7クラスの規模で整備し、その後9クラスまで増やせるよう段階的に整備する。

配置イメージは、南側にグラウンド、北側に校舎を整備する。北体育館との連携も考えている。

来年度から、基本設計、実施設計を行うが、プロポーザル方式で提案をもらいながら進めていく。

整備手法等の検討について、国では公共建築物において、積極的に木造化を促進する方針を示している。また、県も県産材の活用促進を進めていることから、可能な限り木材を活用できるよう検討する。

図書館でもあったが、ゼロカーボンシティ社会の実現に向け、省エネルギーを図るためZEB化を検討する。ただし、図書館のZEBはエネルギー放出50%マイナスを目指す。学校では使用していない時間も多く非効率なところもあるので、30%以上のZEB化を目指す。

バリアフリー・ジェンダーフリーの考え方として、誰でも使いやすい空間となるような整備を行い、教育の現場でもSDGsを体感できるよう考えている。

適正化の全体イメージとスケジュールについて、校区の設定はまだであるので、次年度以降、話をしながら校区の設定をしていく。新中学校について、河合小学校は、灯明寺中学校に通っているが、校区を変更し新しい中学校へ校区を変更する。

まず、来年度に用地の取得を行い、用地造成のための設計を行う。また、建物建設のための設計調査業務を行っていく。令和6年度、7年度に新築工事を行い、令和8年度の中学校の開校を目指す。

また、現森田中学校については、令和6年度に中学校としてのキャパシティが足りなくなるため、来年度設計を行い、5年度に増築を行う。また、令和7年度から2校化に伴う増築・転用・長寿命化対策の工事を行い、令和9年度に小学校の2校化を行う予定をしている。

現森田小学校についても、老朽化が進んでいることから、2校化後、大規模改

修工事を実施する。

これらの事業費は、新中学校は約5.7億円、現中学校の事業費が約1.1億円、現森田小学校の事業費は約7億円、総額7.5億円程度を見込んでいる。

これからの学校施設のあり方について、国は、昨年1月に、令和の日本型学校教育の姿として、学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という方針を示した。そういった教育の姿を基に、現在、新しい時代の学びを実現する学校施設の姿を検討している。「学び」、「生活」、「共創」、「安全」、「環境」という5つの姿の方向性が9月中間報告で示されている。

こういった方針が示されている中、基本計画策定委員会でも、方針を受け、こういった学校を目指すのかについて議論した。また、12月にワークショップを行い、保護者の皆さんの意見を踏まえながら考え方について整理してきたところである。

まず、令和4年度から令和8年度を期間とする、学校教育方針、「学びをつなぐ・未来につなげる」といった考え方を踏まえ、これまで市内で整備してきた中藤小学校、本郷小学校、明道中学校、至民中学校、安居中学校の良かったところを、取り入れながら、新しい学校を整備したいと考えている。

代表的なものとして、廊下と教室との一体的な使用として、壁を取り払って流動性のある空間づくりと、校舎内の教室や廊下などに木材を活用した温かみのある空間づくりなどが考えられる

そうしたことに加えて、5つの方針の中で、「学び」、「生活」、「共創」の部分において、ワークショップなどで出た意見について、取り組んでいきたい。

まず、学びの視点においては、個別の学習やグループ学習、ICTを活用した学習など、それぞれの規模や形態に応じた環境を整備していく。

次に、生活の視点においては、普通教室の収納空間の配置を工夫し、子どもたちが生活を送る上でゆとりある空間を整備していきたい。

また、共創の視点においては、地区の資源を活用し、学校、家庭、地域が連携、協働しながら教育活動に取り組める環境を整備していきたいと考えている。

なお、具体的な施設のレイアウトなどは、今後、学校や保護者など地域の意見も聞きながら、来年度以降実施する基本設計、実施設計の中で行っていきたい。

教育長

ただ今の説明について、御意見、御質問等があればお願いします。

図面はあくまでイメージであるので、こうなるわけではない。実際には提案を受けて、プロポーザルでやるのか。

事務局

そうである。

(教育総務課長)

春木委員

国産の木材を最初に考えているのか。足りない場合は、外国産材になるのか。

事務局

優先順位は、県産材、国産材、外国産材という形になる。

(教育総務課長)	
春木委員	大丈夫なのか。間に合うのか。
事務局 (教育総務課長)	令和4年10月頃までに木材量が決まれば、確保できると聞いている。ただし、量が取れてもそれを加工する工場が福井にはないため、どういった建て方にするかによっては、県外に持って行って加工すると高くなることも考えられる。どこが現実的な線なのかを考えていかないといけない。
教育長	他はいかがか。北部地域の適正化については、順調に進んでいる。また、進捗があれば報告をお願いします。
教育長	(第28号議案から第30号議案までの議案及び報告(1)は、結果も含め非公開)
教育長	予定していた審議事項は以上であるが、他に何かあればお願いしたい。
事務局 (学校教育課長)	— 卒業式の告辞について説明 —
教育長	他によろしければ、事務局から次回の日程についてお願いする。
事務局 (教育総務課 課長 補佐)	次回の定例教育委員会について、3月25日(金)15時から、場所は福井市役所本館8階第1委員会室にて開催するので、御出席いただきたい。
教育長	以上をもって会議を終了する。

令和4年3月23日

署名委員 多田 和博

署名委員 宮郷 美千代

会議録作成職員 藤井 由文